

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

自分で選び、自分で進む学び

～2年生「自分でぐんぐん みんなでぐんぐん」の自由進度学習の実践から～

斐太北小学校では、斐太北型イェナプラン教育の一環として、子ども一人一人が自分のペースで学びを進める「単元内自由進度学習」に取り組むことに挑戦しています。

まずは2年生で、7月に、学びの目的や意味を、子どもたち自身と一緒に考えるところから始まりました。

この実践は、東京学芸大学佐野亮子先生や妙高市教育委員会のご指導をいただきながら、担任が研修を重ねて行いました。

「なぜ学ぶの？」

「自分で選んでいってどういうこと？」

まずはこうした問いを通して、子どもたちは“学びの主人公”になるとはどういうことかを、自分の言葉で考えました。「選べるってうれしい」「自分で決めるってちょっとドキドキ」—そんな声が聞かれました。

自由進度学習には、学びへの意欲を高め、自分で学ぶ力を育てるという大きなメリットがあります。一方で、まだ学びを自分ごとにできない子には不安や混乱が生まれる可能性もあります。そのため、教師は一人一人の理解や進み具合を丁寧に見取りながら、必要なサポートを行っています。

2年生の教室では、真剣なまなざしで課題に向かう子、友達と教え合う子、自分で計画を立てて「今日はここまでやる」と言う子など、学びに向かう多様な姿が見られました。先日の授業



自分でぐんぐん みんなでぐんぐん せつめい書



2年 番 名前()

- ◇「自分でぐんぐん みんなでぐんぐん」とは？
自分で計画を立てて、自分のペースで学習をすすめる時間のことです。
- ◇なぜ、「自分でぐんぐん みんなでぐんぐん」をするのかな？
自分の力で学ぶ力を身につけてほしいからです。学習は、なんのためにしますか？だれののためにしますか？こたえは、すべて、「自分のため」です。自分の学習にせきいんをもってとりくみましょう。また、学習するだけでなく、「計画を立てること」「なぜ？と きもんをもつこと」「自分の学習をふりかえり、つぎに生かすこと」ができるようになってほしいです。
- ◇こまったら、どうするのかな？
分からないことが あったら、先生や ともだちに きいて よいです。でも、まずは、自分で考えましょう。
- ◇どんな学習をするのかな？
2つの学習をします。ぜんぶで14時間です。(1時間目:ガイダンス)
国語:「同じぶぶんをもつかん字」
「絵の中のこばをつかって文をつくろう」(4時間)
算数:「長さ」(8時間)
- ◇早くおわったら どうするのかな？
「今日の計画」が早く終わったら、どんどんつぎにすすみましょう。すべての内容がおわったら「パワーアップぐんぐんコーナー」にすすみましょう。





参観で来校された折に、2年生教室周辺に「長さを測ってみたい!」と思わず定規を当てたくなる『ほんものの長さを写し取ったキャラクター』が複数掲示されていたことにお気づきでしたか?教師からの一斉指示ではなく、子どもたち自身が考え、選び、進める場面が少しずつ広がっています。



また、自分の学びを振り返って毎時間カードに記録しました。振り返ることで「できた」「がんばった」実感が育ち、自己肯定感が高まります。ただ進めるだけでなく、「どのように学んだか」「もっとよい学びはなかったか」を見つめ直す時間です。結果だけでなく過程を価値づけることで、次の学びの質が上がります。2年生でも詳しく学びの記録を書く子がいて、今後振り返ったことを共有したりカードを工夫したり、教師の手立て改善の大きなヒントになりました。

私たちはこれからも、子どもたちの声や振り返り、教職員の見取りをもとに、一人一人が「自立した学習者」として育っていけるよう、教師の関わりを少しずつ「教える」から「委ねる」へと変えていきます。この单元内自由進度学習は、今後全学年で取り組んでいきます。

教えすぎないために、教えることを真剣に考える

最近、「教えない授業」という言葉を目にすることが増えてきました。それを「先生が何もしない授業」や「教師が不要になる」といったイメージで語られている場面を見聞きすることがあります。

【教えるとは何か】を考え抜いた結果、必要なタイミングで、必要な支援だけを厳選して行う——そんな関わりのかたちが、「教えない授業」と呼ばれているのではないかと私たちは考えています。手を抜いたり、責任を放棄したりすることではなく、むしろ「教えすぎないために、教えることを極める」という、深い専門性と心構えの表れなのではないかと思うのです。

かつて「良い授業」といえば、こんな姿が理想とされてきました。

教室が静かで整然としている 板書をきれいにノートに写す 先生の問いにすばやく正確に答える

もちろん、そうした授業にも価値はあります。でも、「その時間、子どもは本当に考えていたか」「問いや気づきが生まれていたか」——そんなことを問い直すことも、大切になってきました。皆さんはどう考えますか。

「教えない授業」といっても、教師が何もしないわけではありません。

あえて説明を控える あえて問いを残す あえて沈黙して待つ あえて任せて寄り添う

といった判断を通して、子どもたちが自ら学ぶ力を育てようとする働きかけなのだと思います。そうした判断は、「どう教えるか」を真剣に考え続けてきた人にしかできないことでもあります。

本校でも「自由」という言葉がときに表面的に捉えられ、「好きなようにしていい」といったかたちで子どもにも大人にも拡大解釈されてしまうことがあります。

でも私たちが大切にしているのは、「何でもアリ」ではなく、「選び取る力」を育てるための自由です。

子どもが自ら問い、考え、選択し、行動する——それを支えるには、教えすぎないことと同じくらい、教える技術と関係づくりが必要だと実感しています。職員研修や他校の実践を参観させていただく時間を今年度は確保させていただいています。少しずつ、子どもとともに実践を重ねております。今後も、ご理解とご協力をよろしく願います。